



編集者:エリ

株式会社 鈴木住研
TEL 042-424-1449 FAX 042-424-1446
E-mail info@suzuki-jyuuken.com
ホームページ <http://www.suzuki-jyuuken.com/>

我が家は窓で、節電します。

花びる片手に花火を見よう

第34回隅田川花火大会

1733年の江戸中期に始まった、伝統ある隅田川花火大会。東日本大震災犠牲者への慰霊と1日も早い復興の願を込め、伝統の両国開き花火大会を継承する行事として、昨年に引き続き開催し、被災地に向け『元気』を届けるとともに、都区民に潤いと憩いの場を提供しようとするものである。

開催日時 2011年8月27日(土) 19:05~20:30
悪天の場合 8月28日(日)に延期
開催場所 第一会場/桜橋~言問橋 第二会場/駒形橋~厩橋
打ち上げ数 約20000発

日刊スポーツ主催 2011神宮外苑花火大会

都心部で行われる人気の花火大会。大小のスターマインが夜空に打ち上げられ、東京の街並みを花火の光が照らしだす。神宮球場をメインに、外苑内の4球場が有料観覧会場となり各種イベントも開催。花火とともに豪華ゲストによるライブやアトラクションを楽しめるのが、神宮外苑花火大会の真骨頂だ。

開催日時 2011年8月6日(土) 19:30~20:30
悪天の場合 8月7日(日)に延期
開催場所 神宮第二球場
打ち上げ数 約10000発

横浜から元気を! 東日本大震災復興祈念 第26回神奈川新聞花火大会

神奈川県横浜市で開催されている毎年恒例の「神奈川新聞花火大会」が、ことしは東日本大震災祈念として開催。被災地の花火師による打ち上げや、被災地産の花火玉の使用を予定するなど、震災復興の一助となることを目指している。また、協賛金の一部を義援金とする。

開催日時 2011年8月17日(水) 19:00~20:00
悪天の場合 中止
開催場所 横浜みなとみらい21
打ち上げ数 約6000発

すずき住研の「無料耐震診断」



室内に流入する熱。その約**70%**は窓からでした。

アウターシェードは日射の侵入を抑えます

単板ガラス **40%** 遮熱Low-E複層ガラス **20%**

- 窓の外で強い日射熱を遮蔽。室内温度の上昇を抑え、エアコンなどによる電気使用量の低減に効果を発揮します。
- 日中、外からの視線を程よくカットして、プライバシーを確保。
- 室内からは透視性が良く、外の景色も楽しめ開放感いっぱい。
- 窓からの直射日光を和らげ、畳の日焼けや家具、電化製品などの傷みを抑制。
- 使用しないシーズンや強風時は、スプリングで簡単に巻き上げ、コンパクトに収納。

マンガでわかる!

住宅リフォーム支援制度ガイドブック

“こんな暮らしがしたい!”の実現に役立つ一冊です!!
ご覧になりたい方に無料で郵送いたしますので、ご請求下さい

資料請求

アウターシェード	洋風すだれ	YKKap	<input type="checkbox"/>
耐震	誰でもできる わが家の耐震診断	国土交通省住宅局	<input type="checkbox"/>
住宅リフォーム支援制度 ガイドブック	減税・補助・融資を利用した 賢いリフォーム方法をご紹介	国土交通省住宅局	<input type="checkbox"/>
水まわりピカピカブック	水廻りの簡単な修理・お掃除・ リフォームをご紹介	INAX	<input type="checkbox"/>

資料送付先

お名前:
ご住所:
ご連絡先:

資料請求先

株式会社 鈴木住研 行
FAX:042-424-1446
E-mail:info@suzuki-jyuuken.com

ハウジング用語「笑う(わらう)」
本来開いてはいけない部分に隙間ができること。
下の写真の中央にある丸蓋あたりから手前にかけて、目地が開いている。こうした状態を笑っているという。

季節のお手入れ(8月)
・台風は備えて、住宅内外の点検を行って下さい。
特に、屋根、雨樋、窓、雨戸、排水溝などについて安全に注意の上、点検して下さい。





「信じるか信じないかはあなた次第」

マヤ暦の終わり、2012年に世界は終わる？

～想定される12のシナリオ～

その1：太陽嵐

太陽はおよそ11年ごとに、活動が活発な極大期とそうでない極小期とを繰り返す。極大期には、様々な電子機器が機能停止する、強い太陽フレア（過度に充電された陽子の噴火）現象が発生する可能性が高い。

また、強い磁場、高密度のプラズマを伴った太陽風が地上に到達することで、電力供給網を混乱させ、米国だけでも1億3000万人に被害が及ぶ、大規模停電の可能性もある。

まるでSFのような話だが、1859年に発生した太陽風は、米国と欧州の電信網をショートさせた。そして、1989年の太陽風では、カナダケベック州の全域を停電させるに至った。

急速に電化が進む現代、世界規模で停電が発生すれば、未曾有の混乱が発生することは避けられない。しかし、心配は不要である。NASAの科学者は、2012年の太陽フレアの可能性を完全に否定している。

その2：パンデミック

パンデミックとは、感染症の世界的な大流行である。古くは、14世紀のヨーロッパにおけるペスト（黒死病）、19世紀以降7回にわたって発生したコレラの大流行などがある。

20世紀では、エイズ、SARS、そしてインフルエンザの流行が記憶に新しい。特に、1918年に米国で発生した「スペインかぜ」に至っては、感染者6億人、死者4000～5000万人と、第一次世界大戦の死者を大きく上回る被害者を出した。

そして、パンデミックは天災ばかりとは限らない。人工的に作られた病原菌が、何かの手違いで拡散する可能性もある。天然痘、炭疽菌、エボラ熱、コレラなどの細菌やウイルスは生物兵器として温存されている。

その3：惑星エックス

惑星エックスは、海王星よりも遠い軌道を公転していると仮定される天体である。もし冥王星を惑星として数えれば、太陽系10番目の惑星となる。古代シュメール人から「ニビル」と呼ばれていたこの超巨大惑星は、約3600年周期で太陽系と垂直方向な楕円軌道で動いている。そして、2012年、地球の重力圏内に近づくと予想されている。

もし本当にその巨大惑星の重力圏内に地球が入ることになれば、大洪水や大地震の発生は避けられない。最近の異常気象はこの惑星の重力によって引き起こされている可能性もある。さらに、古代エジプトの記録には、惑星エックスの接近でノアの大洪水が発生し、アトランティス大陸が海底に沈んだことが記されていると主張する者もいる。

しかしながら、天文学者はその惑星の存在には否定的で、それ程までに巨大な惑星であれば肉眼で見えることもできるはずだと言っている。さらに、惑星ニブルの接近は、当初2003年の5月が予想されていたが、今は便宜上、マヤの暦に合わせ、2012年12月21日に変更された。

その4：ビッグリップ

ビッグリップ理論によると、私たちの肉体、惑星、そして宇宙全体が、文字通り引き裂かれることになる。この理論の提唱者、ダートマス大学のロバート・コールドウェル博士によれば、宇宙を拡大させている暗黒エネルギーが加速度的に増え、銀河をまとめている重力が膨張に負け、すべての星がバラバラになるとのこと。

そして、電子と原子核を結び付けている電磁力、原子核をまとめている核力も宇宙の膨張に負け、原子自体が崩壊する。原子の崩壊で宇宙に存在する全物質が引き裂かれ、完全に消滅する。後に残されるのは素粒子と膨張を続ける空間のみとなる。

しかし、心配は無用だ。現状の宇宙の膨張速度から計算して、ビッグリップ現象が発生するのは、なんと200億年先のこと。それまでには、別の要因で太陽系が消滅する可能性の方が高い。

その5：地球温暖化

人類が地球温暖化の原因になっているかどうかは別として、地球の温度は確実に上昇している。気象の専門家によると、グリーンハウス（温室）効果がひとたび臨界点に達すると、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を完全に停止したとしても、気温の上昇を食い止めることはできない。

世界保健機構（WHO）の統計では、世界で年間15万人が地球温暖化に関連した異常気象の犠牲になっている。そして、国連事務総長の潘基文氏は「地球温暖化は戦争の危険に匹敵する」と警告している。

その6：ガンマ線バースト

大型の恒星がその生涯を終える時、超新星となって爆発し、大量のガンマ線（高周波の電磁放射線）を解き放つ。今までに発生した超新星の爆発は、地球から遠く離れた宇宙空間で起きている。しかし、太陽から30光年以内の距離で爆発が発生した場合、破滅的な影響が想定される。

ガンマ線は、大気を破壊し地球規模の大火災を引き起こす。地上の生物は、数カ月内にすべて消失する。しかし、ガンマ線による地球破滅の確率は非常に低い。幸運にも、地球の近くには超新星となって爆発する星は今のところ存在しない。

その7：コンピュータによる支配

映画『ターミネータ』が現実になる可能性は、少なからず存在する。コンピュータ技術は日々向上している。そしていつの日か、自分自身を複製するコンピュータが出現しないとも限らない。

今の世の中、コンピュータが侵入していない場所は、少なくなりつつある。銀行、病院、株式市場、空港など、一昔前の計算だけを実行していた電算機時代とは比べものにならないほどコンピュータは普及している。

人工知能を備えたコンピュータの能力が、人間を頭脳で上回り、コンピュータの生みの親である人間を破壊する日もそう遠くないかも知れない。

著名な科学者である、スティーヴン・ホーキング博士は、コンピュータの脅威を認め、「遺伝子工学を駆使してでも人間の頭脳を向上させ、目覚ましい発展を遂げる人工知能に打ち勝たなければならない」と語り、人工知能の脅威の現実性を訴えている。

その8：ポールシフト

ポールシフトとは、地球の自転で発生する磁極やその自転軸などが、何らかの要因で現在の位置から移動することである。実際、地球の地磁気は40万年周期で反転していることが地質学的に明らかになっている。

そして、その40万年周期の節目となる年が2012年である。もし本当に磁極が反転するようなことにでもなれば、地震や津波、大洪水など、地球規模の大惨事が発生する。

ポールシフトの要因である大陸移動は、わずかであるが確実に進行している。しかし、この地殻の変動が磁極の反転に繋がるかどうかは定かではない。NASAは、その可能性を完全に否定している。

その9：電磁パルス

強力な太陽フレアが地球の電力供給網を麻痺させるように、強力な電磁パルスの拡散も同様の被害をもたらすことになる。そして、電磁パルスの放射は、太陽などの自然現象ではなく、核弾頭が高高度で爆発するなど、人為的な要因で発生する。

米国議会「電磁パルス委員会」の報告では、電磁パルスの爆発が米国本土上空で発生した場合、米国市民の90%が1年以内に死亡すると推定している。そして、電磁パルスによる被害の度合いは、発生した高度に依存する。高度が高ければ高いほど被害半径が大きくなる。

その10：核戦争

東西の冷戦時代は終わりを告げたが、核戦争の脅威は今も存在する。その脅威は、核爆発による熱や放射能だけではない。最大の懸念は「核の冬」と呼ばれる氷河期の到来である。

二人の科学者、アラン・ロボックとオーウェン・ブライアン氏によると、インド・パキスタン戦争で50発の核ミサイルを双方が使用したと仮定した場合、太陽光線が遮られ10年間にわたって暗雲が地球規模で垂れ込める。その間に植物の死滅や気候の急激な変化が起き、地球全体の生態系に壊滅的な被害が予想される。

その11：アステロイド

映画『ディープ・インパクト』や『アルマゲドン』は作り話であるが、アステロイド（小惑星）の衝突は現実には起こりえる話である。月や地球に刻まれたクレーターの跡は、その確固たる証拠となっている。

2028年、アステロイド「1997XF11」が地球に接近する。大半の科学者は、地球に衝突する可能性を否定しているが、もし、衝突するようなことにでもなれば、地球の生物に未来はない。

しかし、NASAの調査から、6500万年前に恐竜を絶滅させた隕石に相当するほど巨大なアステロイドは、地球近辺に存在しないと報告されている。

その12：ゾンビ

ホラー映画で頻繁に登場するゾンビ。腐った死体が歩き回る恐怖に人々は戦慄を覚える。現実には起こりえない話だが、同様のことが発生する可能性がある。

死んだ人間が生き返ることはできないが、特殊なウイルスに感染して凶暴化した人間が、ゾンビのように人々を襲うことは十分に考えられるシナリオである。

一つの候補として狂犬病が考えられる。狂犬病は神経中枢に感染し、人々を凶暴化する。もし、狂犬病の病原体がインフルエンザのウイルスに合体したならば、たちまち被害は拡散する。この合成は、技術的には難しいが、理論的には可能である。